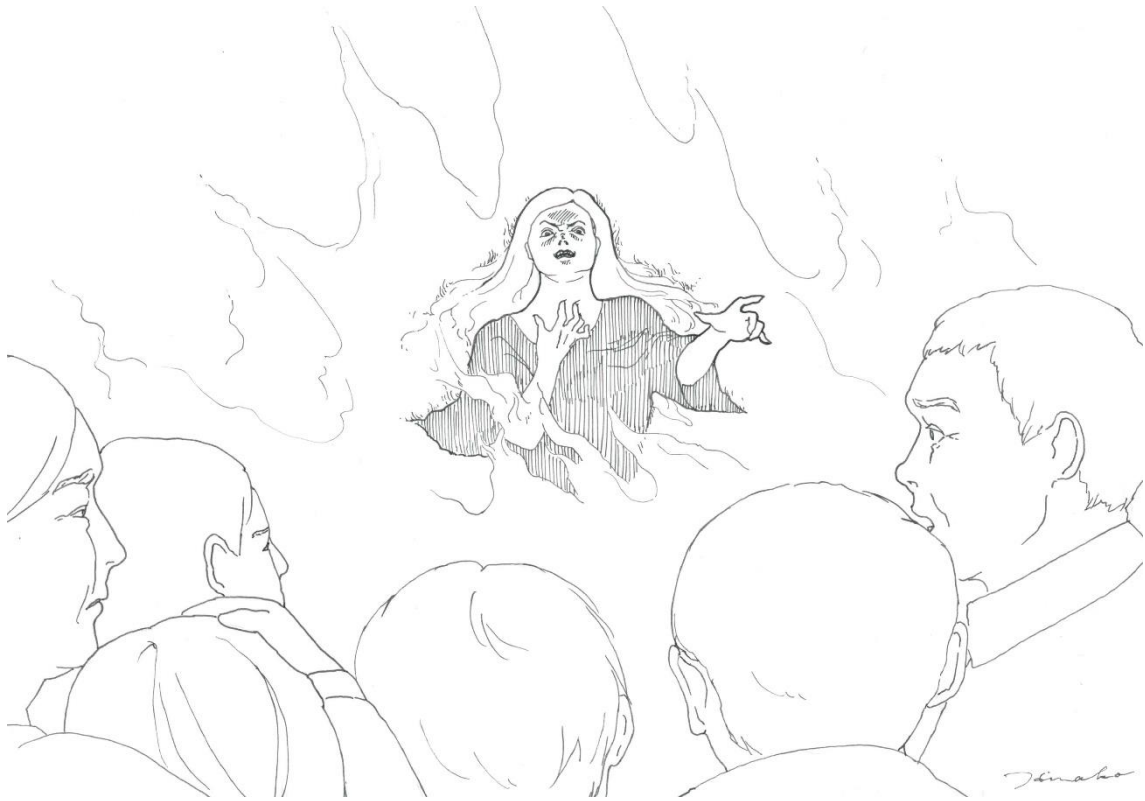


「ブラッディマリー」



(Drawn by Hinako FUJIMURA)

むかしむかし、^{もり なか まじよ す}森の中に魔女が住んでいました。^{かのじょ ちか むらびと}彼女は近くの村人たちから、
ブラッディマリーと^よ呼ばれていました。^{むらびと}村人たちは、ブラッディマリーを^{こわ}怖がっ
ていました。

あるとき、^{むら わか おんな こ}村の若い女の子がいなくなりました。^{ひとり}一人じゃなくて、
^{なんにん}何人もです。いったい、どこへ^{むらびと}いってしまったのでしょうか。村人たちは、わか

りませんでした。「ブラッディマリーが何か知っているかもしれない」と、村人たちは思いました。それで、何人かの村人たちがブラッディマリーのところに行って、聞いてみることにしました。

「若い女の子がいなくなったんだけど、知らないか」と、村人たちは聞きました。

「若い女の子？知らないよ」と、ブラッディマリーは、答えました。

しかし、村人たちは彼女が前より美しく、若くなったことに気がつきました。でも、女の子と関係があるかどうか、わかりません。

ある夜、一人の女の子が森の方に歩いて行きました。女の子のお母さんはまだ起きていて、女の子が歩いて行くのに気がつきました。

「ねえ、あの子が森の方へ歩いていくわ」

女の子のお母さんは、隣で寝ていた女の子のお父さんを起こしました。

二人は急いで家を出て、女の子を追いかけました。ほかの村人もそれに気がついて、二人のあとを追いかけました。

両親と村人たちが女の子を追いかけっていると、森の中で突然不思議な光が見えました。それはブラッディマリーでした。彼女は、不気味に光った杖を持っていました。それを見た村人たちは、

「何をやっているんだ！」

と言って、いっせいにブラッディマリーに飛びかかりました。そして、ブラッ

イマリーを捕まえました。村人たちは、大きい火を燃やして、その火の中に彼女を入れてしまいました。

「うぎやああああ！」

ブラッディマリーは、火の中で燃えながら、村人を呪いました。

ブラッディマリーが死んで、女の子は無事でした。しかし数日後、村人たちはたくさんの墓を見つけました。最初にはなくなった女の子たちの墓です。やはり女の子たちはブラッディマリーに殺されていたのです。

村人たちは、そのあと安心して暮らしたのでしょうか。いいえ。村人たちがブラッディマリーを殺してから、恐ろしいことが起こるようになりました。彼女の呪いです。

鏡の前で彼女の名前を3回言います。すると、鏡の中から彼女の姿が現れて…そして、彼女に殺されてしまうのです。

鏡の前で「ブラッディマリー」と3回。みなさんは、絶対にしないでください。いね、絶対に…

(1016字)

(2020.5 Written by STRECZYWILK ELIZABETH JANE, GILL JORDAN BRADLEY)

(Edited by Toru YOSHIKAWA)

(2021.5.31更新)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典:「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.